



認知症まちづくり 地域円卓会議

認知症の方々の安心安全な外出を担保できる
まちづくりについて考える

実施報告書

日 時： 2022 年 4 月 17 日（日）13:30-16:10（受付開始 13:00-）
場 所： 宜野湾市社会福祉センター 2 階ホール
主 催： 沖縄認知症見守りコンソーシアム
（公益財団法人みらいファンド沖縄、公益社団法人沖縄県地域振興協会）
協 力： NPO 法人まちなか研究所わくわく

報告書作成
NPO 法人まちなか研究所わくわく
公益財団法人みらいファンド沖縄

ACTIVITY REPORT

【報告】認知症まちづくり地域円卓会議



■日 時：2022年4月17日（日）13:30-16:10
■場 所：宜野湾市社会福祉センター 2階ホール
■着席者数：7名（論点提供者、司会、記録者含む）
■来場者数：20名（企業、行政、自営業、等）

■共 催：沖縄認知症見守りコンソーシアム
（公益財団法人みらいファンド沖縄、
公益社団法人沖縄県地域振興協会）
■協 力：NPO法人まちなか研究所わくわく

論点提供 志良堂 孝（宜野湾市介護長寿課 主幹）

認知症の方々の安心安全な外出を担保できる まちづくりについて考える

今回のテーマは、認知症とまちづくりの議論です。まずは地域中を安心して出歩くことができるまちづくりの話を行い、後半はその安全が担保された状態でさらに認知症の方々が求めていることをどう地域が受け止め実現するかという議論に発展できると良いと考えています。

センターメンバー



志良堂 孝
宜野湾市
介護長寿課 主幹



安次富 麻紀
沖縄県若年性認知症
支援コーディネーター



鈴木 伸章
公益社団法人
認知症の人と家族の会
沖縄支部代表



友寄 利津子
合同会社
GreenStarOKINAWA
代表社員



玉城 尚子
コープおきなわ
総合推進室

認知症まちづくり 地域円卓会議

認知症の方々の
安心安全な外出も担保できる
まちづくりについて考える

論点提供
志良堂 孝
宜野湾市介護長寿課 主幹

主催 沖縄認知症見守りコンソーシアム
(公財みらいファンド沖縄, 公社沖縄県地域振興協会)
協力 NPO法人まなご研究所わくわく

2022.
4.17(日)
13:30 ~ 16:10

◎ 宜野湾市社会福祉センター

公募説明会
16:30 ~ 17:30

地域の困りごとを
社会課題として
共有・共有する

宮道喜一<記録>
25名が出席された

志良堂 孝
宜野湾市介護長寿課

安次富麻紀
沖縄県老年福祉研究会
事務局・コーディネーター

鈴木伸章
公社認知症の人と家族の会

友寄利津子
合同会社 Green Star OKINAWA

玉城尚子
コーポみらいの
総合推進室

<司会>
平良斗星
みらいファンド沖縄

志良堂 さん

論点提供

独居 6,300人

宜野湾市 10万人 19,820人
19.8%

2040年 2.9万人 22.2% (県) 28.4% (全国)
26.9%

要支援 595人 要介護 2,566人

認定率 15.9% (県 17.7%)

介護保険料

認知症 15.6% 約 2,500人 (H27)

独自推計 19.7% 約 4,200人 (R7) 2025

IIa以上の割合が県平均より高め

- 道迷いが社会課題とならないまち
- 事業が自走・継続できる (くみずてい)

宜野湾市 施策

サポーター
養成講座
5,500人

地域支援
推進員
(包括)

キャラバン
メイト
啓発

ケアパス
制度

権利擁護
成年後見
市長申請

初期集中
支援チーム

カフェ・イベント
(月1)

虐待防止
対応

見守りおかしり支援ネットワーク

みちまひ支援 H28.11 ~

登録 66名

協力 39団体 56事業所

早期発見・保護

市 市社協
宜野湾署

ミモライド (ICTの活用) R2 ~

LINEアプリ 位置情報
Googleマップ が通知

受信性の向上
タグの多様化
近隣市町村への広域化

少人数
効率的
情報
リアルタイム更新
共有

● 人とサービス・支援を つなぐ

- 地域で生活し続けられる
本人の状況にあわせた
環境づくり

- 施策のハニーがハバひろい
各とりくみの連動
若年性認知症では
就労・子育てまで

宜野湾市
10万人

高齢者
支援
とのつながり

経済的支援
就労の "
こどもの "

🐼 安次富 麻紀 さん

③

若年性

1ストップの相談窓口

新 オレンジプラン

H29 ~ 全国配置 → 沖縄県 1名

居場所
づくり

支援
ネットワ
ーク

普及
啓
発

18~64 における
人口 10万人あたり
47.6人・50.9人
() (R.2)

対象者少ない
若年性に特化した
通いの場がない

- 職場の人が変化に気づきやすい
- 若年性認知症につながりにくい
- 男性に多い
- 経済問題
- 主介者 → 配偶者・ヤングケアラー
- 複数介者

● 福祉的就労

B型の事業所でも、
認知症のことも知らないこと多い

知的・精神の
障害

- 介護保険 利用できることまちのぞむ方も

- 啓発 がとても重要 (発信)

- 全国の当事者の会が声をあげている

- 本人ミーティング → 施策へ

本人が何をしたいか、本人にきいていく

- できることと、まわりがどうあけて
いることも

(県外) 毎月かよえて、お仕事できる

車の洗車、○○、○○...

運動しながらはたらきに

働く介
事業所

🐼 鈴木伸章 さん

認知症の人と家族の会

④

8年前に支部となった。

20年前に名づけて活動はじまる

地区会 : 月1回会キ
(5地区) (相談会・講演会など)

ひまわりカフェ (県支部活動)

北中城村社協にて

- 家族に知識もってほしい
- これからのこと対応できる
- よううをもっとみとれる

当事者
の声から

- みとって、その後 3ドバイス(会員2人)

65名 正会員
11名 賛助会員

まだまだ
少ない

『おでかけ』

- 理解ある人は、止めない
かくれてついていく。
- 家族の理解がとて大事
- 自治会にも皆で支えて。
- かくしたい、という感情
- 失ったことを皆で支えれば

家族 → 地域

両方が理解
すること

本人交流会

- 参加するとかわる
- 自信になる

居場所

毎日となると
世話する人が
むずかしい

シニアフル
ゴルフ

色々なゲームある

いっしょになって
できる。

うしろと
ココみえない

友寄利津子 さん ⑤

昔は大型の事業所しかなかった。
(施設)
認知症の人むずかしかった

小キボ事業所 浦安市

オープンキッチン - デイサービス

フットホーム エリヲ限定 きめこまやかに

『あきらめない』

制度にのらなくても
事業所だけでなく、
地域・行政まきこんで
同じように困っている人が
もっているはず。

41才 若年性 ①例

子4人 ヤングケア

育児のこと

運動会

いろんな人まきこんで
子どもたちに認知症
理解してもらう家族会

名古屋での列車事故

家族・専門職・行政
だけではできない

『ケアエッグクラブ』

たちあげた

『ハッパリーオリンピック』

地域の課題 ←

いろいろみえて

きた

中学校区で

企業参画

玉城尚子 さん

コープおきなわ

地域見守り協定

17市町村(社協含め)と

お届け先で
ころんでいる

毎週大量購入

窓口へ連絡・対応

買い物送迎サービス

夕食宅配

行方不明情報

おちかど便

配達員へ連絡

協定によって相談できる先

できるのは コープとしてもありがたい

サブセッション

子どもからおとなまで、
理解をしよう。

正しい理解
役割あると生きがい
地域密着型
医療の30のつながり
ICTの活用

タッグみまもりシステム

お町村によってしくみちがう

名称もちがう

情報が届きにくい(サービス)

居場所・はたらく、話もきける

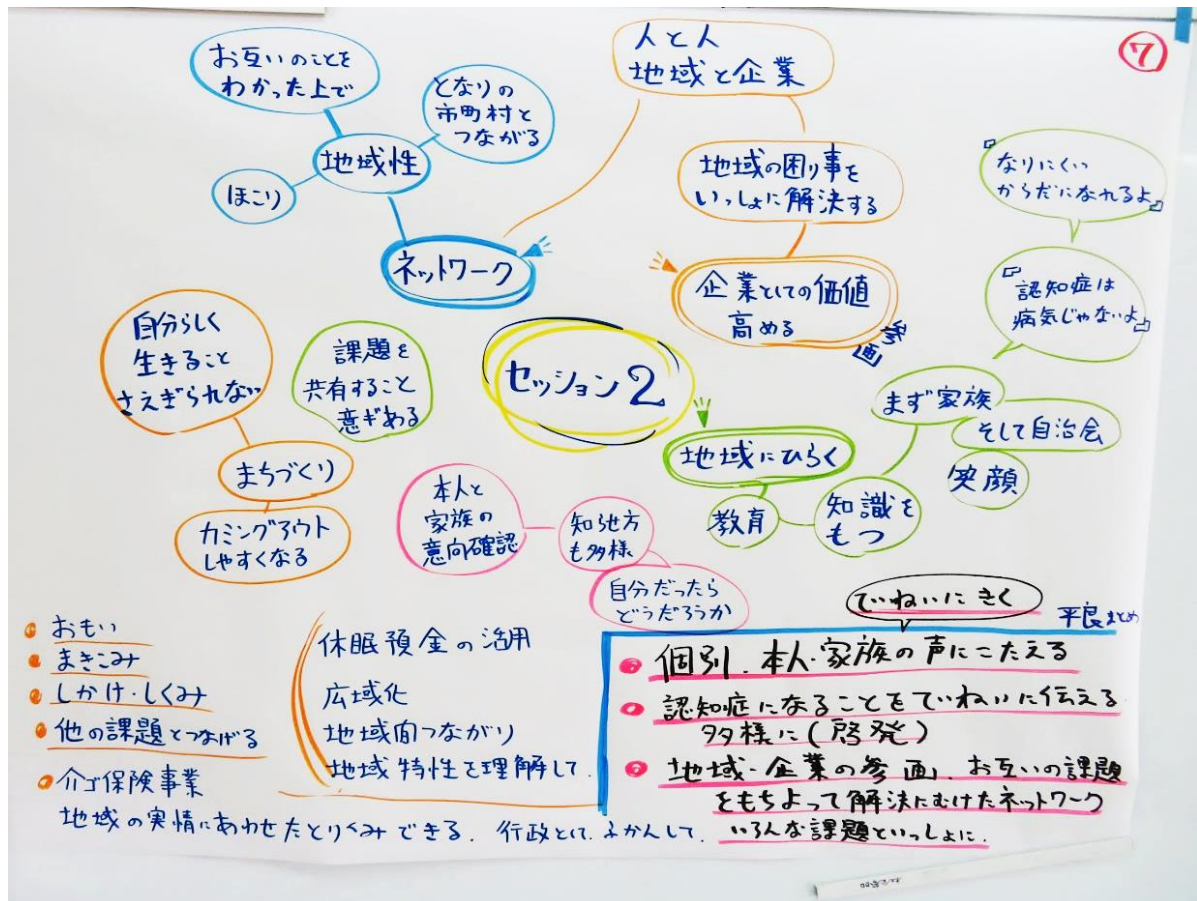
物動・制度の問題

アプリがいっぱいある。

市町村連携

情報局でも、どこかやれど

家族・地域の理解。(前提)



➤ 今後のアプローチの方向性（提案）

- 1) 個別に認知症のご本人や家族の声を聞き取り、応える
- 2) 認知症になるとはどういうことなのか、について丁寧に多様に伝える(啓発)
- 3) 地域や企業の参画について、お互いの課題を持ち寄り、色んな課題と一緒に、解決していくネットワークを構築する

■参加者によるサブセッション

認知症の方々の安心安全な外出を担保できる まちづくりについて考える

(参加者記載の原文をそのまま記載している為、事実と異なることがあります。グループ毎に①、②・・・と記載)

①

- ・正しい理解、認知症は症状
- ・Bコン、商品化、自販機センサー、症状緩和
営業者、タクシーなど、公共交通に設置
- ・不安を取り除けるような
- ・うけてもらえるか、そがいされていないか
- ・ケガしたっちゃったくらい、ふつうになれた
らよい。
- ・女性同士なら話しやすいが、もっといいやす
い社会
- ・当人たちがどんどん発信
- ・環境をととのえれば、よい。
- ・正しい理解、当人がかわっていく。家族やケア
マネに伝える。
- ・小規模多機能、在宅支援。
- ・正しいかわり方。役割があると生きがい
- ・YouTuber 当人、家族がHappyに！
- ・おじー、おばー駄菓子→企業へ販売に行く。デ
イサービスじゃない役割
- ・アイデアが役割をつくる
- ・若い社員のアイデアでYouTuberに！
- ・地域密着ならではの、医療法ならではの
←横でつながる。
- ・仕事、育児、介護、協力する人が少なくなる中、
ICTの活用は必須！
- ・おばあちゅーぶ登録してね YouTuber

②

- ・タグ 市によって違う (サービス)
- ・こまる
- ・言葉も違う (SOS)
- ・一ケアマネー 介護度 認知症—仕事、道ま
よい居場所がない
- ・当事者や家族の話もきいてみる
→サロン、カフェ
- ・制度の問題
- ・行政—食事
- ・移動の問題
- ・情報がない
- ・頼れる
- ・知られたくない
- ・サービスがわからない 女性・男性

③

- ・認知症の番組をもっと発信していくべき
- ・人に相談しづらい、はずかしい。家族もどうし
たらいいか
- ・家族会のように、早く見通しが分かることは
良いこと
- ・認知症という壁をくずすことが大事
- ・今後は、誰でもなるものと、国も理解
- ・一番の薬は、“環境”。症状への対処方法を皆が
分かっている
→子どもから、大人まで、“理解”をすすめる
取組が必要

④

- ・情報来ても、どのように動いていいかわからない
- ・関わりないと他人事
- ・関わる段階によって
- ・アプリいっぱいあるが…
- ・市町村連携
- ・地域の理解→家族は何している！！

⑤

- ・認知症の種類。治る、治らない
- ・ケアの仕方を知っていると楽しくなる。いやされる。
- ・家族の理解→種類とステップの理解
- ・利用者の笑顔一笑わせると距離が近づける。
- ・地域を巻き込んでのサポート。啓発の仕方、取り組み？ 実践している人は少ない？
- ・家族会、自治会、包括センターと一緒にやるといい。現場に出て、地域の力を借りて
- ・当事者の集まり、自信になる。 ひまわりの会
7/10 北中 防災講演 鈴木さん

⑥

- ・見守られない権利
- ・竹富町（高齢化率 23%）一家族の同意+地域の見守り
- ・民生委員 役場と通いの場
- ・嘉手納町一独居認知症
- ・地域で温かく見守れたら理想
- ・地域の理解
- ・見守り隊、認知症サポーター養成講座
- ・支えられる覚悟
- ・本人も認知症について知る。

⑦

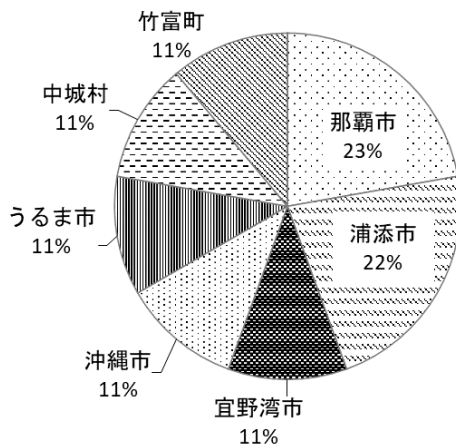
- ・課題は共通している
- ・本人の声をきくことが大事
- ・それをどのように取り組みか協働につなげていきたい。
- ・関係者が多い→コミュニケーションツール。電話とメール。簡単なツールが良い。
- ・ネットワーク間のコミュニケーションも（匿名性の確保）→知らない人が多く、あいだがらでの
- ・団体間ネットワーク
- ・理念は共通している
- ・実際会うのも大事
- ・上だけではなく下の人も参画できるコミュニケーション
- ・参加したい人が参加するネットワーク

認知症まちづくり地域円卓会議 参加者アンケート集計

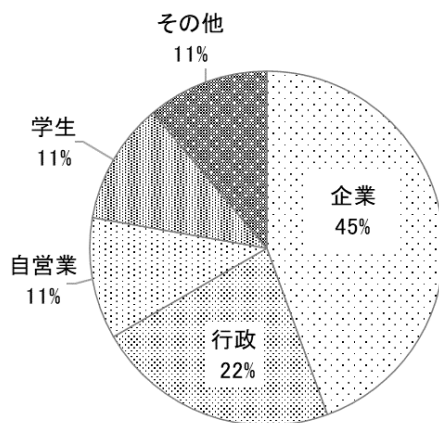
◆概要

- ・日時：2022年4月17日（日）13:30-16:10
- ・場所：宜野湾市社会福祉センター 2階ホール
- ・着席者：7名（論点提供者、司会、記録者含む）
- ・参加者：20名（アンケート回収9名、回収率45%）

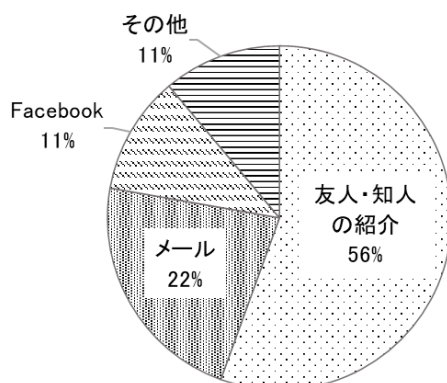
1. どちらから？



2. 所属



3. 円卓会議はどのように知ったか



4. 満足度

平均：4.7（5点中）

5. 満足	4. 概ね満足	3. 普通	2. あまり満足していない	1. 不満足
7名	1名	1名	0名	0名

5. 満足度の理由

（5. 満足）

- ・それぞれの団体のとりくみを知ることが出来、自分の町にも還元できることが多く学びが深かったため
- ・着席者のそれぞれの視点が明確で分かりやすかったです。最後のまとめのおかげで理解度が深まりました
- ・まちづくりをしていく中で、社会資源を活用することや様々な人、機関を巻き込むが大切になってきます。今回の会議では各分野の代表からお話を聞くことができ、色んな視点から認知症について考えを深めることができました。有意義な時間となりました。ありがとうございます
- ・全く知らなかった、認知症について、各現場の声を聞いて良かった。まず、認知症について理解することが大切
- ・本人、家族、地域の理解（認知症に対する）も大切ですが、地域とのつながりが希薄になっている中で、周りの方々が見守る方法も工夫していく必要があるなと思いました。認知症というと、どうしても高齢者をイメージしてしまうため、若年性認知症に関わっている安次富さんのお話が聞いてよかったです

（4. 概ね満足）

- ・司会進行者が着席者の話を上手に引き出してとても聴き易い円卓会議でした

（3. 普通）

- ・福祉に最近興味をもったため知識が乏しいためか、センターメンバーの話が少し難しく感じた。

6. 円卓会議で印象に残ったこと

- ・ 知識普及の重要性（地域の人一人一人が住みやすい地域について）を改めて感じました。関係がある、ないを分断されてはいけない
- ・ ICT の活用
- ・ 私なりのまとめとして「知る」ことが全ての根幹をなすそれについてのマクロでのアプローチを1人1人が主体性をもって取り組む個人－行政－企業で出来ることの実践を加速させる
- ・ 仕事の中で、丁度私が悩んでいた認知症の「家族の理解」について鈴木さんからお話を聞いたのは、共感させていただいた部分もあれば、私自身、新たな知識として取り入れることができました。今後の課題として家族が理解するためには、私が何ができるのかということです。自分自身も知識を深め、デイサービス側としてご家族のサポートができるようまちづくりの一員になれたらと思います
- ・ 家族がまず、認知症について理解をする、できる限り笑いのある環境をつくることが大切
- ・ サブセッションの中で“見守られない権利”ってどうなっているのか？というお話がありました。症状が進行していく中で、安心してお出かけが出来つつ、本人の希望も大切にしていって難しいところだなと感じました。 ・ 地域によって、人口や地域性が異なるので、自分が働く市町村では何が必要か考えていきたいです
- ・ 志良堂さんが紹介していたバッジですが、バッジの所持について当事者は納得しているのか気になった。“見守られない権利”の保障も課題なのかと感じた

(写真) 会場の様子



マズル リンゼリ(通称)	情報系も
カツマタム (株)アスタ (介護系)	どろろに動い?
ナカザトム / 〇〇〇〇〇〇 地味な話	聞かれないと他人事
〇〇〇〇〇〇 いっぱいあるから...	肉体的段階まで
・市町村連携	

チーム、中核(関)さん(介護のコミュニティ)運営支援さん4人です。
①中核 光さん(介護関連) ②川上。

② 認知症の家族とどう接していくべき。
① 人に相談しづらい、はずかしい。家族をどうしたらいい。
③ 家族会のおり、早く見通しが分かることは良いこと。
認知症という方へよくすることが大事。
家族は、不信でもなるもの。困る理解。
一応の事は「環境」。症状への対処方法などが分かっている。
→ 子としてから、大人まで「理解」をすすめる取組が必要。

鈴木さん、うえずさん、金城さん、石田
市町村連携

タイプ、各所にあった。

種類 - 認知症の種類、認知、認知症
- ケアマネージャーと関係する、認知症
認知症 - 認知症の種類 - 認知症の種類
③ 認知症をどうにかする、認知症の種類、認知症の種類
④ 認知症をどうにかする、認知症の種類、認知症の種類
⑤ 認知症をどうにかする、認知症の種類、認知症の種類
⑥ 認知症をどうにかする、認知症の種類、認知症の種類
⑦ 認知症をどうにかする、認知症の種類、認知症の種類
⑧ 認知症をどうにかする、認知症の種類、認知症の種類
⑨ 認知症をどうにかする、認知症の種類、認知症の種類
⑩ 認知症をどうにかする、認知症の種類、認知症の種類

1. ジョージさん [タケ] 市にまで言う(サセズ)
2. タムラさん [タケ] 言葉も言う(SOS)
3. キンバ [タケ] 仕事
4. タマキさん [タケ] 仕事
5. タマキさん [タケ] 仕事
6. タマキさん [タケ] 仕事
7. タマキさん [タケ] 仕事
8. タマキさん [タケ] 仕事
9. タマキさん [タケ] 仕事
10. タマキさん [タケ] 仕事

認知症の種類、認知症の種類、認知症の種類
認知症の種類、認知症の種類、認知症の種類
認知症の種類、認知症の種類、認知症の種類
認知症の種類、認知症の種類、認知症の種類
認知症の種類、認知症の種類、認知症の種類
認知症の種類、認知症の種類、認知症の種類
認知症の種類、認知症の種類、認知症の種類
認知症の種類、認知症の種類、認知症の種類
認知症の種類、認知症の種類、認知症の種類
認知症の種類、認知症の種類、認知症の種類

見守られない権利

竹富町 - 家族の同意

(高齢化率 23%) + 地域の権利 民主委員 通いの場

カネ十町 - 独居認知症

地域で温かく見守れたら理想

地域の理解

長寿村計画、認知症サポーター

権利ある人

養成講座
本人も認知症に気づく

友寄さん、とくごさん、また
天・病院

・とくごさん

正しい理解、認知症は症状

・友寄、Bコン、商品化、自販機、センサー、症状から
営業車、タクシーなど公共交通に設置

・不安感をとりのぞけるような
うけてもらえるか、それがいされていないか
けがしたくらい、ふいふになれたらよい

・女性同士なら話しやすいが、もっといいやりかた
当人たちがどいぶん発信
環境をよとのえれば、よい。
正しい理解、当人があつていく、家族やケア
に伝わる。

・小松ボタ子、ざいふく支えん
正しいかあり方。

Youtuber
当人、家族
Happy!

役割がある生きがい
おじい・高友菓子

関係者が多い

→ コミュニケーションツール

知の山、電話とメール

↑ 簡単なツールが良い

ネットワーク内のコミュニケーション
(安心、安心の確保)

団体内ネットワーク

・理念は共通している

・実際に会うのも大事

・上の方ではなく下の人

・参画できるコミュニケーション

・参加した人の参加
するネットワーク